



2024年1月27日 福岡県筑紫地区人権・同和教育研究大会 参加者の感想意見

明石先生のユーモア溢れるお話に聞き入ってしまいました。教師になりたての頃、先輩の先生にサラリーマンみたいな教師になってはいけないと、言われたことを思い出しました。子どもの暮らしに心を寄せることの大切さを、しみじみと感じる今日この頃です。行いや言葉の裏に隠された子供らの声に耳を傾けていきたいと思います。 【春日市 教職員 小学校】

明石一朗さんが話されていた、「知識理解から行動へ、少数者から多数者へ、コロナや震災などの身近な人権問題から」の視点をもってこれからも人権教育に取り組んでいきたいと思えます。また、偏見・差別の背景にある「思い込みや先入観」「無関心」「少数者問題として捉えること」について、自分自身を常に見つめ直していきたいと思いました。

【那珂川市 教職員 小学校】

人権問題と同和教育の違いについて考えることができました。また、同和教育は、無くすことができるということを改めて感じる内容でした。いろいろな差別について学ぶだけでは人権教育とは言えない、無くしていける、無くしていこうとする行動力をつけることが大切という言葉が心に響きました。「素敵な出会いやふれあいを豊かにすること」「暮らしを通じて自分自身に引き寄せること」「正しく学ぶ機会を持つこと」を大切にということを最後に言われていましたが、そのことがとてもよくわかりました。楽しく学ぶことができました。

【大野城市 教職員 小学校】

人権・同和教育が、構えてしまう事ではなく、分かりやすく、面白く楽しい、役に立つという視点を持つ事が新鮮でした。明石先生ご自身の豊富なご経験から、理屈ではなく、目の前の子どもたちを深く大事に、くらしに心を寄せる事の大切さを学ばせて頂きました。手品も素晴らしかったです。

人権は、暴力と貧困のない、安全安心な社会と幸せの追求である事から、共有、交流を通し、正しい知識と感性を持ち生活して参りたいと存じます。本日は大変有難うございました。

【筑紫野市 保護者】

明石節炸裂！久しぶりでしたが、本当に元気が出ます。この明るさとユーモアを持った啓発を常にしたいと改めて思った。暗く、重たくすれば人権・同和教育をしたと勘違いしてはいけない。前向きに、明日も楽しく、愉快地に朗らかに！

【筑紫野市 行政職員】

時折ユーモアを交えながら話してくれて、大変興味をもって聴くことができました。一見穏やかに見える姿ですが、内に熱い思いをもっていることを感じました。

いくつも印象に残った言葉がありましたが、「3つの財産」差別の現実学ぶ・地域家庭と連携する・子どもの未来を保障するということと「分かることは、かわること」が特に印象に残りました。教師として子どもたちに伝えるべき立場にある自分自身が、学び、そして伝えていくことの大切さを再確認しました。その際「3K」は少なからず自分も感じていたので、できる限りそうならないように伝えていくことができればと思いました。差別は、昔にあったことではなく、今現在もあり続けていることを消防車に例えて話をされたことも分かりやすかったです。ありがとうございました。

【太宰府市 教職員 中学校】

明るく軽快な語り口で楽しく視聴できました。人権学習の授業を私も行いますが、先生がおっしゃるように「わかりやすい・楽しい・役に立つ」授業になっていたかと問われると自信がありません。やはり、差別はいけないという授業に終始していただけないかと反省ばかりです。「こうしたら解決できそう、なくしていける」という展望を持たせることの重要性を改めて感じました。「生まれた場所で差別されることはおかしい」という当たり前の感覚を子ども達と共有し、一緒に無くしていこうとする気持ちがいつも根っこにあるようなそんな学級経営をめざして、今後も子ども達と過ごしていきたいと思いました。

【太宰府市 教職員 小学校】

ウイットに富んだジョークや手品、軽快な語り口に思わず引き込まれました。また、同和教育への学生の認識を、英語が苦手とする理由とかけてされた説明、「寝た子を起すな」論の母親への消防車に例えた話なども言い得て妙でした。人権教育を、いかに自分事にしていくのかは、これからの時代、ますます大切になるだろうと思います。「人権・同和教育は、明るく、元気に、前向きに」もとても素敵だと思いました。自分も、「わかりやすく、楽しく、役に立つ」、子どもたちが自分事として考えていくことができるような、解放の展望をもてるような、人権教育ができる力をつけていきたいと感じました。

【大野城市 教職員 小学校】

明石一朗先生からは、講演を通して、どのように同和教育が発展してきたのか、私たち教師が今、考え、学び、実践していかなければならないことは何かということ学びました。同和教育を実践してこられた先輩方は、子どもに寄り添い、地域や家庭とつながり、向き合ってこられました。今、子どもたちは激動の時代を生きています。今の時代だからこそ、私たち教師は、同和教育が築き上げてきた財産である、「子どもの生活、差別の現実深く学ぶ」「地域・家庭との連携」「子どもの未来を保障する」ことを今一度考え、学び、実践していかなければなりません。今回の明石先生からの学びを生かし、子どもたちの未来のために協力して取り組んでいきましょう。

【事務局】